

陸平通信

OKADAIRA 2016年3月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 86号

ものづくりの技術体験

この冬、文化財センターでは、体験を通して昔の暮らしにふれていただきました。

完成までの時間はかかりますが、その分、物を大切にしたり味わったりする心の豊かさも体験できたことでしょう。



みそ作り
大豆をつぶして
麴とよく混ぜて
います。



石皿とすり石で
木の実をすりつぶして
縄文クッキー作り



予告！
ゴールデンウィークの
5月3日は、文化財セ
ンターでいろいろ体験
できます！

自分で裂いた布を
よこ糸に入れて
トントン、はた織り

はた織り体験では、はた織り機で生地を織り、その生地を使って3月にはバッグを作ります。生地を織る際の横糸は裂いた布を参加者が用意して、ほかにはない素敵な柄に仕上がりました。バッグの完成が楽しみです。

みそ作りは地元の大豆や麴を使い、時間をかけて仕込みました。大豆を煮たり、つぶしたり、混ぜたり、

樽に仕込んで半年以上熟成させます。すぐには食べられませんが、どんなみそができるか待ち遠しいですね。

縄文クッキー作りは、通年受け入れを行っている体験メニューです。木の実をすりつぶす道具は数千年前の縄文時代の家の跡からよく見つかり、生活必需品だったことがわかります。



江戸の世を知るひととき



古文書講座

今から200年前はまだ江戸時代。しかし、現在のわたしたちの暮らしぶりはすっかり様変わりして江戸の世は遠い昔のように感じられつつあります。古文書や落語を通して江戸時代の人々のくらしをリアルに楽しく知ることができます。

古文書からは美浦村の知られざる姿が、落語では巧みな話術で江戸の世にお連れします。



梅朝基礎落語 今回の演目は「八五郎出世(俊馬)」

土に眠った埋蔵文化どんな昔が花開く (日和吟社俚謡集より)

木原送信所跡に

説明板設置

木原地区には太平洋戦争中、霞ヶ浦海軍航空隊木原送信所が置かれていました。その敷地の一部は現在、福祉センターになっていきます。この送信所では戦時中に航空基地や軍用飛行機との通信が行われていました。今年度、村に残る戦跡として福祉センターの入り口に文化財説明板を設置しました。当時の写真などとあわせて紹介していきますので、福祉センターを訪れたり、通りがかった際には、どうぞご覧になってください。



おさえんにし 御茶園西遺跡の整理を進めています②

文化財センターでは平成 25 年度に発掘調査を実施した御茶園西遺跡（木原地区の日本テキサスインスツルメンツ美浦工場付近）の整理作業を昨年度からおこなっています（※1）。

御茶園西遺跡では家の跡（縄文時代、古墳時代）や貝塚（縄文時代）などが見つっていますが、出土遺物の多くは縄文時代のものです。今年度は主に貝塚の貝を調べたり、縄文土器の接合や復元などの整理を進めてきました。御茶園西遺跡の人々がどのような種類の貝や魚を海（※2）からとってきたのか、また、たくさんの割れている土器のかげらが元々どんな形をしていたのか少しずつわかってきました。

※1 発掘調査については陸平通信 78 号に、昨年度の整理は同 82 号に紹介しています。陸平通信は村 HP でもみることができます。

※2 霞ヶ浦は縄文時代の頃は海でした。



貝の分類

貝塚の貝を種類ごとに分けています。潮干狩りで取れるような貝をとってきているようです。



土器の接合

同じ土器の破片を集めて並べています。



土器の復元

割れた土器を元の形に復元しています。



貝サンプル分類

貝や骨、炭化物などを分けます。

大谷貝塚をさぐる！第2回

大谷貝塚の出土品を通して縄文人の暮らしをかいまみてみましょう。

土製耳飾り

円筒状の小さな土製品が8点出土しました。

両端が広がり、片方の面がもう一方より大きく作られています。その大きい方の面に模様が刻まれたものが2点ありました(写真1・3)。耳たぶに穴をあけ、はめ込んで使用した耳飾り(ピアス)と推定され、耳栓ともよばれます。いずれも縄文時代中期のものです。



1

2

3

ピアスは世界各地で人々が身につけています。幼い時から耳、鼻など、体の内部に通じる場所に穴をあけて、魔除けのためにピアスをつける習慣をもつ民族があります。縄文人の様々な装飾品も、お

しゃれというより、身を守るために欠かせないものだったのかもしれない。

ただ、大谷貝塚の場合は出土数から考えると、何か特定の役割を持った人たちが身につけるものだったという可能性もあります。写真3の耳飾りに見られる渦巻き模様は、土器などにもよく見られます。縄文人にとっては大切な意味があったのではないのでしょうか。

日本では古墳時代が終わると、西洋文明が入ってくる近代まで、耳飾りはみられなくなりま。今またピアスを付ける人が増えたのは、なぜなのでしょうね。

(阿部きよ子)

大谷貝塚は美浦郵便局の裏、現在建設中の国道125号バイパスの中に位置しています。貝塚は縄文時代前期(約5,500年前)と中期(約4,500年前)に形成されました。ご紹介した耳飾りは現在、文化財センターで展示しています。

小惑星「陸平」ってどんな星?

寒い季節は星がよりきれいに輝いてみえますね。小惑星のひとつに陸平貝塚にちなんだ名前がつけました。正式名称は、(9650) Okadaira = 1995YG (国際天文学連盟の公報にて2015年12月25日発表)。

この小惑星は群馬県在住のアマチュア天文家・小林隆男さんが1995年に発見した星です。美浦村の西山洋さんが命名の提案をしたところ、命名申請権を持つ小林さんが快諾し連盟へ申請して下さいました。

小惑星「陸平」は、火星と木星の間を楕円軌道で回っていて、3年半ほどで太陽の周りを一周します。大きさは直径約4Kmと推定されます。地球にはおよそ1年半ごとに近づきますが、光度は17等と暗く、残念ながら肉眼でも望遠鏡でも見ることは難しいです。しかし、はやぶさが調査し

たイトカワの80倍も明るい星ではあります。望遠鏡にカメラを取りつけて撮影することはできますので、天体観測をされている方はぜひ小惑星「陸平」の撮影にチャレンジしてみてください。今後、地球に近づくのは早くて2017年1月上旬と予測されています。

現在発見されている小惑星は60万個ともいわれており、そのうち名前がついている星は1万6000個ほどです。世界中の天文愛好者にも陸平貝塚の名を知ってもらう機会ができました。

小惑星「陸平」の詳細な物理データはNASAのHPで検索すると誰でも見ることができます。名前の由来も記されていますよ。

NASAのHP

<http://ssd.jpl.nasa.gov/sbdb.cgi?sstr=9650>

※本文は西山洋さんよりいただいた情報をもとに作成

大正時代の陸平貝塚の絵を公開します

近年、東京国立博物館に陸平貝塚を描いた絵が残されていることがわかりました。

描いたのは、長原孝太郎という洋画家で、大正5（1916）年頃の陸平貝塚の様子を知ることのできる大変貴重な資料です。

当時の皇室博物館（現東京国立博物館）の依頼で製作されたもので、極めて写實的に描かれています。陸平貝塚を最初に調査した佐々木忠二郎や、その後調査に訪れた大野雲外の記述にみられる陸平貝塚の様子がまさにこの絵から伺え、加えて土器や貝をはじめとするさまざまな考古学的な情報をも読み取ることができます。

長原孝太郎は美濃国（現岐阜県）出身で、陸平貝塚の絵を描いた頃はちょうど東京美術学校（現東京芸術大学）の教授に就任しました。

文化財センターで長原孝太郎作「貝塚図」の画像を展示します。100年前の陸平貝塚の様子をぜひご覧になってください。

平成 28 年度

古文書講座 講座生募集

古文書を読んでみましょう。江戸時代の美浦村の様子を学べます。

古文書に興味がある方、どうぞご参加ください！

- ◆対象 美浦村在住及び在勤の方で古文書に興味のある方
- ◆人数 15名 ※初めての方を優先します
- ◆講師 平田満男先生
- ◆場所 文化財センター
- ◆時間 午後1時30分～午後3時30分
- ◆日程 全10回
 - ① 5月15日 ② 6月12日 ③ 7月10日
 - ④ 9月11日 ⑤ 10月16日 ⑥ 11月13日
 - ⑦ 12月11日 ⑧ 1月15日 ⑨ 2月19日
 - ⑩ 3月12日

※資料代がかかる場合があります。

◆申込み 文化財センター（電話 886-0291）



木原城址のパンフレットが
できました

戦国時代の城跡である木原城址はこれまでに何度か小規模な発掘調査が行われています。それらの調査の内容も含めたパンフレットを新たに発行しました。文化財センターで配布しています。

ワンポイント 古文書講座

文字を読んでみよう！
今回も地名です。

形子村
定本村
切橋村

絵文字は今のどいかにあっていますか

陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car

常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分

【バス】 by bus

JR土浦駅より西口①バスのりば
木原経由江戸崎行き
「谷津入」下車 タクシーで約5分
または「大谷」下車 3.5km

